

ネイティブアクチノバシラス属 クレアチナーゼ

Cat. No. NATE-0160

Lot. No. (See product label)

はじめに

□明 酵素学において、クレアチナーゼ(EC 3.5.3.3)は、次の化学反□を触媒する酵素です: クレ

アチン + H2O ↔ サルコシン + 尿素。したがって、この酵素の二つの基質はクレアチンと H2Oであり、二つの生成物はサルコシンと尿素です。この酵素は加水分解酵素のファミリーに 属し、ペプチド結合以外の炭素-窒素結合に作用します。特に線状アミジンにおいてです。クレアチナーゼは、クレアチンと水分子をサルコシンと尿素に□換する反□を加速します。常にホ

モ二量体状態で作用し、塩化コリンによって誘導されます。

用途 クレアチナーゼとサルコシンオキシダーゼを混合することで、異なるpH、温度、酵素比、

バッファー濃度におけるクレアチンのレベルを測定することができます。また、遠心分析装置

を使用して血漿クレアチニンレベルを測定することにも使用できます。

別名 クレアチンアミジノヒドロラーゼ; クレアチナーゼ; **37340-58-2**; EC 3.5.3.3

製品情報

由来 アクチノバシラス属

形態 糖類と安定剤としてのEDTAを含む凍結乾燥粉末

EC番号 EC 3.5.3.3

CAS登□番号 37340-58-2

分子量 分子量 ~100 kDa

活性 20-40 ユニット/ mg タンパク質

等電点 4.6 ± 0.1

pH安定性 pH 5.5 − 9.0 (25°C, 16時間)

最適pH 8

熱安定性 50°C未□(pH 7.5、30分)

最適温度 40°C

ミカエリス定数 1.9 x 10⁻2M(クレアチン)

構造 酵素1モルあたり2つのサブユニット

阻害剤 Cu++, Hg++, Ag+

単位定義 1ユニットは、pH 7.5、37°Cで1分あたり1.0 μ moleのクレアチンを尿素とサルコシンに加水

分解します。

保管・発送情報

保存方法 -20℃